

2011年
夏号

さざんかの郷 福祉情報誌 ほのぼの生活

第15回さざんかの郷
夏まつり

平成23年
7月23日(土)
PM6:00~9:00

※雨天の場合は地域交流スペース

東北地方の老人ホームを応援しています。

東北関東大地震義援金募集中

たいやき 焼きそば お好み焼き ポップコーン 焼き



夏のタベ
バラエティステージinさざんかの郷

地域密着型サービス

小規模多機能型居宅介護事業所

「コミュニティウインドウさんか」(定員25名)



5月1日からサービス提供を開始しました！

コミュニティウンドウさんかでは、一人一人の生活リズムに合わせたサービスを提供しています。サービス提供開始から1か月足らずですが、利用者、スタッフが一つの家族の様な家庭的な雰囲気がすでに生まれています。特に食事においては、オープンキッチンならではの包丁で食材を切る音、炒飯、お味噌汁の香り、天ぷらを揚げる音等々、目の前で調理するため、五感を刺激し食欲をそそるようです。その甲斐あってか、みなさん大変食欲がわき、毎回皆さん完食！おいしく召し上がっていただき、大変好評をいただいています。



施工式・内覧会の様子

3月26日(土)地域の方にもたくさん出席して頂きました。



デイサービス(本館)

満開の藤棚の下でおやつタイム!!

五月晴れの5月3日、開園当初に利用者さんが植樹された「藤」が裏庭の藤棚として満開となりました。3時のおやつは、薰風に乗せて甘い香りを漂わせる藤花の下で行いました。「屋外でのおやつは格別や」と大好評でした。



兜作りに挑戦!!

端午の節句を控えて、個別レクリエーションで折り紙による兜作りを行いました。



しました。悪戦苦闘しながらも、折り紙は指先をこまめに使うことから脳の活性化が図られ、出来上がりの作品は「ひ孫にプレゼントや」と喜ばれていました。



こころのせんたく

い やす おこな かた

『言うは易く行うは難し』

誰でも言うだけならやさしいが、それを実行するとなかなか難しい。口だけなら誰でもできるという意味。

類: 「言うは行うよりも易し」

Saying and doing are two things.
(言うと行うとは別問題である)

自給自足とまではいかないまでも、野菜の苗を利用の方と一緒に買い出しに行き、プランターに野菜を植え、収穫を待って食材に使用したり、きぬさやのすじとりをしていただいたものを卵とじにして召し上がっていただいている。これからはプランターだけでなく、畑を造り、利用者のお知恵をお借りしながらの野菜作りに力を入れ、収穫したものを作り皆さんと一緒にいただけたらと考えています。



アクティビティで足湯をした花畠を散策した
ール工場見学、市内の陶板浴施
日は天気がいい
いろんな



たこ焼き作り



よかたんの足湯



抗酸化脚筋浴

キ

6月からは、交流会(喫茶)もオープン予定です。利用される地域の方々がいつでも気軽に立ち寄っていただける雰囲気でありますので、どうぞよろしくお願ひいたします。おかげさまで希望される方が増えてきております。ご希望の方は、お気軽に見学、お問い合わせいただきますようよろしくお願ひいたします。なお、体験利用も(泊まりもOK)随時受け付けていますので、お気軽にお問合せください。



花の花壇

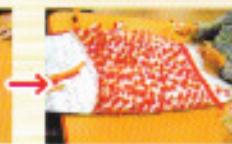
デイサービス別館 さんかデイサービス

親子3匹の鯉がお出

5月といえば端午の節句「こいのぼり」ですが、今年も丹精込めて作られた大きな鯉が出来上がりました。今回はその行程を紹介いたします。



うろこは
兜の折り紙です。



段ボールの台紙に
貼り付けました
おやつも
鯉のぼりに
してみました!!



少し離れて見ると
立体的な、鯉になりました



親子3
く泳い



みなさんは是非一度見に来て
お待ちしてあります



口腔ケア
について
スタッフ
研修会
の様子

イ活動では、散歩がてらよかたり、山田錦の館での買物、菜のり、ドライブを兼ねてキリンビイオン神戸北店への買物、加東駅へ出かけたりと、一家族が「今から、ちょっと出かけようか」と、地域や名所、季節感を感じていただける場所へ外出しています。



方、ご家族、
くりに努めて
まで、利用登



特養(本館) 短期入所

頑張るスタッフ紹介コーナー

戦前戦後の激動の時代を生き抜いてこられた世代の方々が、それぞれの人生の最終章をこのさざんかの郷で迎えられようとされております。そのことを胸に秘めながら、初心を忘れず、今後も思いやりやいたわりの心を持った介護を続けていきたいと思っております。不慣れですが、5月より介護主任として、より一層努力していかなければならぬと頑張っておりますので、ご支援のほどよろしくお願ひいたします。

介護主任 片山裕子



訪問介護『買い物難民』の問題

今は「豆腐は一丁、はがき1枚買うのにバスやタクシーに乗らなアカン」と利用者のつぶやきを聞きました。吉川町の土地柄、店までひたすら歩いて行くか、遠く離れたバス停まで歩き本数の少ないバスを利用。タクシーを利用すれば楽ですが、豆腐の何十倍もの料金がかかるのです。誰しも老いていく過程で体力が落ち、体を動かしにくくなる事は避けられないですから、まさしく買い物難民だ!と感じました。「買い物」というと医療や介護に比べて生命に関わる深刻な課題として捉えにくいですが、単に生活必需品の購入だけが目的ではなく、地域との関わり等幅広い意味を持っています。

既に高齢化率26%を超える『老齢社会』へと一直線に突き進む当地域にとって、購買システムが確立していない事に不安を感じます。買い物だけでなく、困難を抱える方を近所の人は勿論地域で働く人もが温かく見守り助け合う…そんな温かさが、住み慣れた地域での生活を可能なモノとしてくれるのではないかでしょうか?何か画期的な解決法が期待されるところです。

特養本館



寿司バイキング

今日は待ちに待った寿司バイキングの日です。まぐろ・甘エビ・サーモン・・・と色とりどりのネタを厨房の方が目の前で握って下さいました。本当に寿司屋さんに来たみたいな風景でした。利用者の方も一緒に自分の好きなネタをとり手巻き寿司に挑戦です。皆どんな寿司ができたかな!?

在宅介護支援センター

地域に生きる



2・3日続いた雨上がりの日、陽光が木々の緑に当たり輝いています。吉川町は美しい山合いに家々が点差する地域で、今はすっかりこの町に馴染んでおります。隣の地区へ行くのも歩くとかなりの距離がありますが、「今は車があるので楽です」と言われるでしょう。しかし、高齢になり車に乗れなくなるとスローな生活です。文字通り『地に足を着け』です。訪問先で「23年度のさざんかセミナーに申し込みました」と生き生きと話される方と出会いました。人とつながって地域に生きること、この地に生き、この地でお世話になります。引き続きこれからも人それぞれの在宅生活を見つめていこうと思います。今後共、よろしくお願い致します。

居宅介護支援事業所

平成23年4月1日より、特別養護老人ホーム(特養本館)から居宅介護支援事業所に配属となりました。介護支援専門員(ケアマネージャー)として駆け出したばかりでまだまだ右も左もわかりませんが、日々頑張って学びを深め、担当させていただく方々の笑顔が少しでも多く見られるように、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。



迎え!!

を込めて
介させて



西が仲良
でいます

さいね!!

元気にはばたけ 吉川高校生! さざんかの郷ボランティア実践学習

平成23年度の吉川高校ボランティア実践受講者11名（男子2人・女子9人）が、今年も元気よく、さざんかの郷に来てくれました。来年1月のお別れ会まで計9回の体験学習となりますが、希望に満ちた将来へのヒントを、何かひとつでもつかんでもらいたいと思います。

頑張ってください。

今年の11名は、ほとんどが「看護」「福祉」「保育」の道に進みたい生徒です。



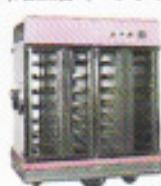
管理栄養士 涼ちゃんからの厨房だより



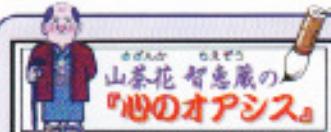
今日の献立

ごはん・肉じゃが
絹さやの炒め物
白和え・ようかん

これは、特養（本館）での食事の写真です。本館には約60数名の利用者がおられます。食事が見やすいようにご飯は黒いお茶碗によそいます。おかずも白い物であれば黒い小鉢に盛り付けたり、緑の物であれば、白い小鉢に盛り付け食事が引き立つ様心がけています。通常のお膳の配置と違うのは、温冷配膳車を使っているからです。お膳の左側が冷たい物で右側が温かい物です。温冷配膳車を使用すると、食事を食堂へ運ぶまで適温で保管できます。これが温冷配膳車です。



これは本館ユニットの食事の写真です。特養とは違ってトレイの代わりにランチョンマットを敷いたり、陶器を使用しています。食事も介護職員が食堂で盛り付けています。特養と同じ刻み食でも陶器に盛り付けるとおいしそうに見えませんか？



笑うことは 最も簡単な成功法

あるアメリカの実践心理学者が提唱している説の中に、「楽しいから笑うのではない。笑うから楽しいのだ。」というのがありますが、大して面白くない場面で、義理で笑い声を立てたりしているうちに、なんだか楽しくなってきたという経験は誰にでもあるのではありませんか。私もある意味その実践者ですが、以前は毎朝玄関先の鏡に向かって、ニコッと笑いかけてから家を出る習慣がありました。不思議なもので笑顔の表情チェックを習慣化していくと、本当にその日一日を笑顔で過ごせるようになってい

ケアハウス ♪カラオケ♪

ケアハウスの行事の一環として毎月2回程度カラオケを行っています。入居者の皆様、本当に歌うことが大好きでカラオケを楽しんでされています。皆様、



気持ちちは歌手です♪
大きな声で元気よく歌われ、聞いていても気持ち良いです。お茶菓子を食べながらお茶を飲み、楽しい午後のひとときです♪

三木市最高齢者 嶋谷やよこ様 満106歳 (明治36年4月22日生まれ) お誕生日おめでとうございます!

お話をすると以前と変わらず本当にしっかり話をされことに驚かされています。やはり长寿の源は、この「天使のような笑顔」にあるのではないでしょうか。



防犯功労者表彰受賞

平成23年兵庫県防犯協会連合会防犯功労賞を受賞しました。

これからも引き続き防犯に努めてまいります。



ったことを今は懐かしく思っております。若き日のある時、目の前で急行列車が行ってしまったときなど、以前は『ああ、悔しい』とムシャクシャしていた自分が、その習慣を続けたことで『次の駅なら隣りの駅からあの可愛い娘が乗ってくるかもしれない』と余裕の笑顔に切替わっていったことを思い出します。笑顔の効用に男女の区別はないのですが、とりわけ女性のニコニコ顔には人を魅了する力があるように思います。お化粧を急入りにすることも悪くはないと思いますが、いい笑顔を身につける努力のほうが今の時代大切ではないかと感じている今日この頃です。まず表面をつくるということが内部を改良する一種の方法もあるということを知っていただければと思います。